



大地震に襲われたトルコ北西部ボル県のカイナシュリ市の様子=11月24日撮影、AMDA提供

# 冬用の住居確保を

AMDA  
医師らトルコ地震救援報告

トルコ北西部ボル県で十一日に発生した二度目の大地震による被災者の緊急救援活動から帰国した国際医療ボランティア団体AMDA(本部・岡山市檀津)の館農勝医師(三)は同日市祇園

で記者会見し、活動内容や現地の様子を報告した。小児科医の館農医師らは二十日にトルコ入り。震源地のボル県ドゥズジェ市から東へ約十キロのカイナシュリ市で国立病院の一室を借り、二十七日の帰国まで、

生後四日から十二歳の子供約二百五十人を診察した。特に一歳前後の患者が多く、約八割はかぜや気管支炎などの症状だった。

現地はすでに雪が降っているが、被災者の大半はテント暮らし。トイレがないなど衛生状態も悪いほか、度重なる大地震による恐怖

心などから精神的不安定な状態の人も多く、館農医師は「今後は冬用の住居の確保と精神的なサポートが何より急務」と話した。